



栗盛 吉右衛門 くりもり きちえもん

生まれた場所：大館市
生まれた年：1838年
なくなった年：1914年

めぐまれない家の子どもが学校で学べるように

栗盛吉右衛門は、今から160年以上前の1838年、大館市おおだてに生まれました。お父さんは、吉右衛門が生まれた年に北海道にわたり、いろいろなものを取り引きする商人をしていました。

7歳のとき、吉右衛門は、母と姉とともにお父さんのいる北海道函館市ほっかいどうはこだてに行きます。

しかし、お父さんの店が火事になってしまい、商売がうまくいかなくなってしまいました。そこで吉右衛門は家を助けるために、学校に行かずに、アメやせんべいを売ってあるきます。そのため吉右衛門は、大人になったときに、文字を読んだり書いたりすることになんぎするようになりしました。

19歳のとき、吉右衛門のお父さんが亡くなりました。そこで吉右衛門は、ふるさどである大館市にもどり「松前屋」というお店を開きました。松前屋では、着物のほか、いろいろなものを売っていたそうです。大館の人は、松前屋に行けばなんでもあると話していたそうです。

吉右衛門は、自分だけがもうかるようなことをせず、いつも取り引きをする相手の立場に立って商売をしました。そのため、吉右衛門は世の中の人に信用され、そのお店はどんどんと大きくなり、大館市を代表するような大きな店となりました。

吉右衛門の商売のやり方についてこんな話がのこっています。あるとき、吉右衛門は、朝ぶろに出かけました。すると、木をたくさん買ったものの、それが売れなくて困っている人の話を聞きました。ふろを出た吉右衛門は、すぐにその人を探し、木を買い上げてあげました。その人はとてもよろこんだそうです。すると数日後、北海道から木を買いに来た人があらわれ、吉右衛門はぶじに木を売ることができたのです。

自分のことだけではなく、ほかの人のことを考えて、商売をした吉右衛門のことがよくわかります。

大館一の商人となった吉右衛門は、51歳のころから、大館市の議員ぎいんをつとめます。

これも、みんなにやってくれとたのまれて、行ったことです。そして、店を子どもにゆずってからは「栗盛教育団きしょういくだん」を作りました。

これは、お金のない家の子どもでも、学びたければ学校に行き勉強できるように、安くお金を貸してあげる団体だんだいです。吉右衛門自身が、学校に行きたくても行けなかった子ども時代をすごしたので、同じように困っている子どもを助けたかったのでしょう。

今のお金になおすと、五千万円以上ともいわれる大金を栗盛教育団べんきょうだんに出して、多くの大館の子どもを、学校で勉強できるようにしました。

まずしいアメ売りから始まり、松前屋を大館一の店にそだて、めぐまれない家の子どものための団体けんだいを作って助けた吉右衛門は、75歳で亡くなりました。栗盛教育団の気持ちは現代までひきつがれ、大館市の人々の心に今ものこっています。